



# 西尾にしゆかりの地

## 三英傑 信長秀吉 家康 徳川家康 鷹狩りに 西尾へ来ていた!!

1565(永禄8年) 家康が鷹狩りの途中、鷺ヶ池に立ち寄り富永伴五郎忠康を引見、仕官を勧めたが、忠康は固辞した。そこで家康は寺を建てる土地と寺領を安堵した。忠康はこの地に妙高山妙満寺を建てたという。(現在は大給町にある)

1574(天正2年) 信長が吉良荘での鷹狩りを待ち、家康が歓待の意を伝える。

1576(天正4年) 12月 信長が吉良荘で鷹狩り、その際に井戸の水を使用。

1577(天正5年) 12月 信長が吉良荘で鷹狩り

1578(天正6年) 1月 信長が吉良荘で鷹狩り

10月 信長が西尾城に御成、酒井忠次が接待。

1579(天正7年) 1月 家康が吉良荘で鷹狩り

1580(天正8年) 1月 家康が吉良荘で鷹狩り

1583(天正11年) 1月 家康が吉良荘で鷹狩り

1587(天正15年) 12月 家康が吉良荘で鷹狩り

1588(天正18年) 12月 家康が吉良荘で鷹狩り

1589(天正19年) 11月 秀吉が吉良荘で鷹狩り

1591(天正21年) 11月 秀吉が吉良荘で鷹狩り

1593(文禄2年) 11月 秀吉が吉良荘で鷹狩り

1608(慶長13年) 家康の九男、義直が名古屋城主となるため、備前候(尾張国知多半島)を巡視し帰路、家康が吉良荘で鷹狩りをしたのち西尾城で5~7日宿泊、本多康俊が御膳を献ず。家康から時服白銀など拝領する。

1612(慶長17年) 1月 家康が吉良荘で鷹狩り

1615(慶長20年) 1月 家康が吉良荘で鷹狩り

鷹狩りは、弓取川の流域でされていたと推定されます。また、吉良荘とは現在の西尾市の大部分を指します。

松平元康が家康に改名。  
吉良義昭が三河一向一揆に乘じて挙兵し、松平家康から離反して一時東条城を奪還したと伝わる。

10月24日 松井忠次が東条城を攻撃。

11月20日 小笠原重広が松平家康に従い、寺部城で三河一向一揆と対峙。一族の小笠原重広は欠城を守る。

閏12月 松平家康が松井忠次に東条城を与える。

2月8日 松平家康が刈谷水野氏の加勢を得て、2千余の軍勢で、西尾城の酒井政家に兵糧米を送る。その帰路、家康と水野氏はハツ面城の荒川義弘を攻める。(伝承)

春 松平家康が土手真宗門徒と和睦。吉良義昭・荒川義弘が没落。2月28日に家康が東条城を総攻撃したとも。以後、一揆側の浅井東城、ハツ面城、東条城、寺津城は廢城に。

1564 9月16日 伊勢を出た広忠が、富永忠康の居城・室城に入る。小島城を修復して出城とする。

1566 12月 松平広忠が元服。吉良持広の一子を授与。

1572 12月26日 松平広忠の子・竹千代(徳川家康)が誕生。(1543年説もある)

1575 3月6日 松平広忠が死去。

1579 12月27日 竹千代を人質として今川義元のもとへ送る際、江原丹波守の子・孫三郎が従つたと伝わる。

1580 5月6日までに松平竹千代が元服し、元信と名乗る。

1581 松平元信が元康に改名。

1582 5月5日 織田方の兵火で実相寺(上町)、浄教寺(平坂町)、蓮光寺(鎌谷町)、大樹寺(伊藤町)を焼く。(誤認あり)

1583 5月19日 桶狭間の戦いで今川方の江原丹波守政秀(忠次)が戦死。

1584 大高城から岡崎城に入ろうとした松平元康が発病。

1585 今川義元の首を東向寺(駒場町)に葬ったと伝わる。

1586 4月15日 善明堤(鎧ヶ淵)の戦い。松平方の深溝城主・松平好景が、東条城主・吉良義昭と戦って、敗走の末に戦死。貝吹町出身の板倉勝重の父・好重も戦死。(1556年説もある)

1587 5月 ハツ面城主・荒川義弘が今川方から松平方に寝返り、酒井政家(正親)と共に今川方の西尾城を攻略?義弘に元康の異母妹・市場姫が嫁ぐ?

1588 6月27日までに東条城の吉良義昭攻撃のため、松平元康の松井忠次が津平砦、本多広季が小牧砦を築く。

1589 9月13日 松平元康の家臣本多広孝が東条城を攻める。(藤波畠の戦い)

1590 富永伴五郎が戦死して吉良義昭が降伏。

1591 4月13日 松平元康が松井忠次を東条城の城代とし、松平龜千代後見の地位を保証。

1592 4月18日 松平元康が平坂の無量寿寺に制札を与える。

1593 加藤嘉明が上永良村で誕生。

1594 1月1日 徳川家康が死去。

### 「矢作(新)川」の開削と 幻の大河「弓取川」の閉塞

現在の西尾市を流れる矢作川が開削された人工の川であることはあまり知られていません。

かつて江戸時代初頭まで、矢作川の本流は今の矢作川でした。

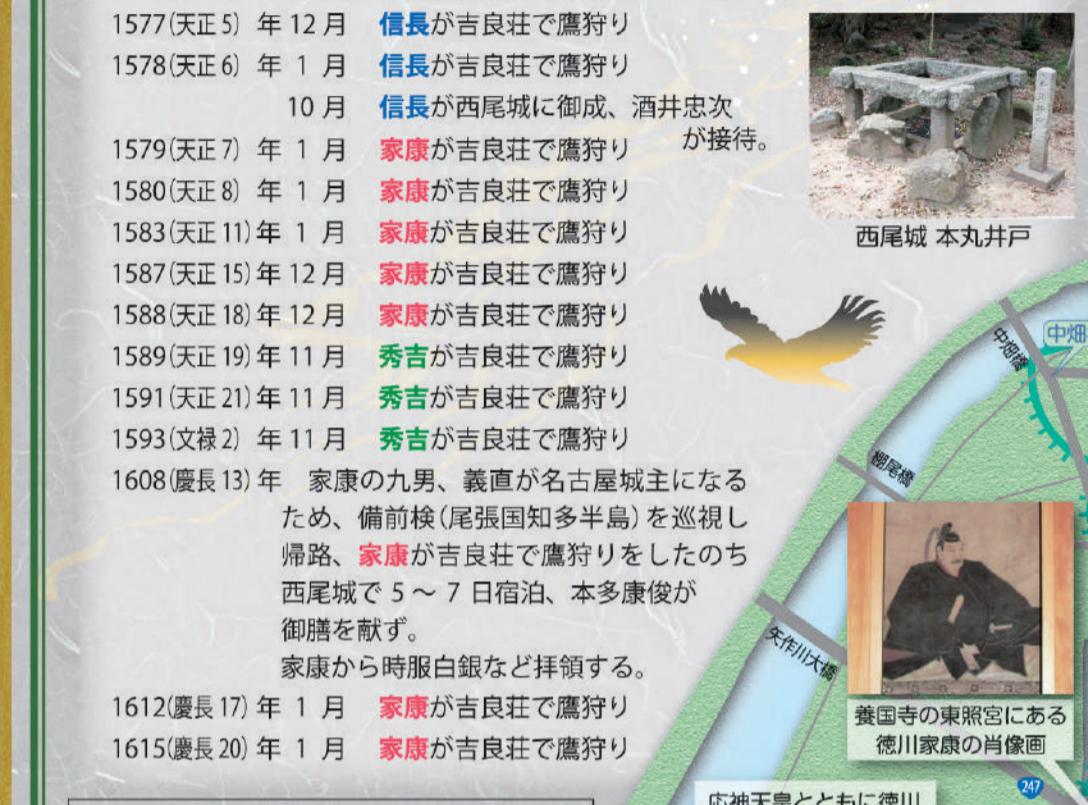
1605(慶長10年) 徳川家康の命により、米津清右衛門が安城市藤井町から西尾市米津町まで碧海台地を開削し、今の矢作川になります。(緑線 = 開削域)

また、小焼野町から分流して一色町開正に至る「弓取川」という大河が流れています。

のちの1646年矢作古川の支流「弓取川」は閉塞され、その流域は埋め立てられ、その存在は幻となりました。

当時の海岸線

岡崎に生まれて三河に霸を唱え、ついに天下統一を果たした徳川家康。生誕地に隣接する西尾市には、若き日の家康が抵抗勢力に鍛えられ、働き盛りの家康が鷹狩りで心身を鍛えた史跡もあります。マップを片手に巡ると、家康の霸業に西尾も一役買っていたことが、ご理解いただけることでしょう。



西尾城 本丸井戸

鷹狩りは、弓取川の流域でされていたと推定されます。また、吉良荘とは現在の西尾市の大部分を指します。

松平元康が家康に改名。

吉良義昭が三河一向一揆に乘じて挙兵し、松平家康から離反して一時東条城を奪還したと伝わる。

10月24日 松井忠次が東条城を攻撃。

11月20日 小笠原重広が松平家康に従い、寺部城で三河一向一揆と対峙。一族の小笠原重広は欠城を守る。

閏12月 松平家康が松井忠次に東条城を与える。

2月8日 松平家康が刈谷水野氏の加勢を得て、2千余の軍勢で、西尾城の酒井政家に兵糧米を送る。その帰路、家康と水野氏はハツ面城の荒川義弘を攻める。(伝承)

春 松平家康が土手真宗門徒と和睦。吉良義昭・荒川義弘が没落。2月28日に家康が東条城を総攻撃したとも。以後、一揆側の浅井東城、ハツ面城、東条城、寺津城は廢城に。

1564 9月16日 伊勢を出た広忠が、富永忠康の居城・室城に入る。小島城を修復して出城とする。

1566 12月 松平広忠が元服。吉良持広の一子を授与。

1572 12月26日 松平広忠の子・竹千代(徳川家康)が誕生。(1543年説もある)

1575 3月6日 松平広忠が死去。

1579 12月27日 竹千代を人質として今川義元のもとへ送る際、江原丹波守の子・孫三郎が従つたと伝わる。

1580 5月6日までに松平竹千代が元服し、元信と名乗る。

1581 松平元信が元康に改名。

1582 5月5日 織田方の兵火で実相寺(上町)、浄教寺(平坂町)、蓮光寺(鎌谷町)、大樹寺(伊藤町)を焼く。(誤認あり)

1583 5月19日 桶狭間の戦いで今川方の江原丹波守政秀(忠次)が戦死。

1584 大高城から岡崎城に入ろうとした松平元康が発病。

1585 4月15日 善明堤(鎧ヶ淵)の戦い。松平方の深溝城主・松平好景が、東条城主・吉良義昭と戦って、敗走の末に戦死。

1586 9月26日 徳川家康が吉良庄見回りのため西尾を訪問。(西尾城改修状況の検分)

1587 11月22日 徳川家康が西尾を訪れる。(西尾城改修完成確認)

1588 12月16日 徳川家康が京都からの帰途で西尾に立ち寄る。

8月 德川家康の関東移封で、幡豆小笠原氏が上総国郡東郡内に領地替え。

豊臣秀吉、伏見城で死去。

6月20日 徳川家康が京都伏見から江戸へ向かう途次、佐久島で宿泊。

1601 2月 本多康俊が2万石で西尾城主に。(西尾藩成立)

9月 長岡寺が板倉家の菩提寺に。

7月22日 徳川家康が矢作川の新川開削が始まる。

1605 徳川家康の命で矢作川の新川開削が始まる。

1610 德川家康側近くの松平(大河内)正綱が幡豆郡小牧村などを3千石を拝領。

3月 小笠原親之丞とその弟がキリスト教に帰依したとして改易。

4月17日 徳川家康が死去。

1563 加藤嘉明が上永良村で誕生。

### 「矢作(新)川」の開削と 幻の大河「弓取川」の閉塞

現在の西尾市を流れる矢作川が開削された人工の川であることはあまり知られていません。

かつて江戸時代初頭まで、矢作川の本流は今の矢作川でした。

1605(慶長10年) 徳川家康の命により、米津清右衛門が安城市藤井町から西尾市米津町まで碧海台地を開削し、今の矢作川になります。(緑線 = 開削域)

また、小焼野町から分流して一色町開正に至る「弓取川」という大河が流れています。

のちの1646年矢作古川の支流「弓取川」は閉塞され、その流域は埋め立てられ、その存在は幻となりました。

当時の海岸線

岡崎に生まれて三河に霸を唱え、ついに天下統一を果たした徳川家康。生誕地に隣接する西尾市には、若き日の家康が抵抗勢力に鍛えられ、働き盛りの家康が鷹狩りで心身を鍛えた史跡もあります。マップを片手に巡ると、家康の霸業に西尾も一役買っていたことが、ご理解いただけることでしょう。



西尾城 本丸井戸

西尾城主・本多康俊が父・酒井忠次の追善のために開創した。

松平康忠が中興したと伝わる。

松平忠正が中興したと伝わる。

松平